



平成30年度 異動幹部職員挨拶

着任挨拶

いとう まさひろ

副院長 伊藤 昌弘

本年4月から副院長に就任した伊藤昌弘です。私は平成5年から都立墨東病院で25年間勤務していましたが、その前の平成3年から5年まで府中療育センターに勤務し、5-1（現5-A）病棟を担当していました。院長回診時に久しぶりにお会いし、以前と変わらない利用者さんがいる一方、自分で食べられなくなっている利用者さんもあり、白髪の増えた自分の老いと同様、25年の年月を強く感じるようになりました。多摩キャンパスもだいぶ様変わりし、多摩総合医療センターと小児総合医療センターのきれいな建物がある一方、通称、神経坂を下りると以前と変わらない府中療育センターと神経病院があり、神経坂は過去にも現在にも行ける通路の様です。

今年は府中療育センターの開設50周年であり、平成32年には新センターに移動するなど、私としては良い時期に勤務することができ、うれしく思っています。

今まで墨東病院では、一小児科医として診療し、検査入院としてレスパイト的なことをしたり、東部療育センターをはじめ他の療育センターに短期入所をお願いする立場でした。今後は引き受ける立場になりましたが、わからないことも多く、これから勉強していく所存でありますので、よろしくご指導のほどお願いいたします。



退任挨拶

あんどう みのる

前副院長 安藤 稔

平成28年4月から2年間の在職中職員皆様には大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。私はそれまで、大学病院、都立駒込病院などで一貫して腎臓内科医として、働いてきましたので、療育の世界は初めての経験でした。在職中に医師としての視野を少なからず広げることができたと実感しております。着任時センターは、創立50周年をひかえ、2020年の改築計画が動き出している正に変革を迎えようとする時期でしたが、医療・福祉現場の方々、事務室の方々の柔軟で親切なご協力を頂き、直ぐに順応することができました。副院長職として多くの委員会業務をこなす中で、包括同意取得および利益相反委員会、緩和医療サポートチーム（PST）、呼吸サポートチーム（RST）新設の必要性を感じ実行に移すことができました。また、新センターにおける電子カルテを中心とした情報システムの方向づけにも関われるなど、僅か2年間ではありましたが充実した時間を楽しく過ごさせて頂きました。2020年春には、満開の桜を背景に新築3階建てがそびえ立ち、四季折々の花咲く中庭では、利用者様と職員皆様が仲良く笑顔でいる姿が目につかびます。今後の皆様のご健勝とセンターの益々の発展を祈念しつつ退任のご挨拶とさせていただきます。



着任挨拶

○ 小児科部長 寺川 敏郎（てらかわ としろう）

多摩メディカルキャンパスに小児科医として勤めて27年目。この度ご縁があり当センターに異動することとなりました。見知った顔も多く、医療の継続を含め社会の縮図を感じています。

以前は、小児総合医療センターの立ち上げにも携わり、総合診療から急性期医療、次世代の育成まで幅広く担ってきました。来年12月には新センターが竣工し、システムを含め様変わりすることになりますが、今までの経験を少しでも活かすことが出来たらと思っています。

利用者方々の生命、人権、人としての尊厳を守り、生活の質の向上と社会参加を地域の関係機関と連携しながら支え、多様化する療育ニーズと社会の変化に的確に対応しつつ、安全で安心できる質の高い療育の実現をめざし、全力を尽くしたいと思います。



○ 栄養科長 小山 理美子（こやま りみこ）

4月1日付で、病院経営本部神経病院より異動してまいりました栄養科長の小山理美子と申します。

前任の神経病院は、ご存知のように廊下でつながった隣なので、こちらには何度か訪れたことがありました。調理部門が直営ということもあり、昔懐かしい顔に出会ったりして、心強い限りです。福祉保健局は初めてですが、福祉局にいたこともあり、何となく懐かしい感じがしています。

これからこの府中療育センターで新しいことが色々とはじまることと思いますが、一日も早く慣れ、センターの一員として皆さんと共に頑張っていきたいと思っています。よろしくお願ひします。

○ 薬剤科長 深野 光司（ふかの こうじ）

4月1日付で薬剤科長に着任しました深野光司です。

3月までは多摩総合医療センターで薬剤管理主任技術員として、勤務しておりました。

府中療育センターに参りまして、感銘を受けたことが2点あります。当センターでは当然のことなのかもしれませんが、一つ目は委託の方も含めて、職員同士の挨拶が進んで快く行われているところです。円滑なコミュニケーションができていくことがうかがえます。二つ目はセンター内の至る所に折り紙や紙で作られた装飾品が飾られていることです。重症心身障害児（者）や家族、職員の心が癒されていることと思います。

喫緊に迫っている新センターへの移転をスムーズに行えるよう、また、より良い療育センターを作っていけるよう努めてまいりますのでよろしくお願い致します。

○ 事務次長 小鶴 隆志（こづる たかし）

はじめまして。このたび、事務次長となりました小鶴でございます。

2年ぶりに福祉保健局に戻り、これまで、いろいろ大切なことを学ばせて頂いた福祉・医療の現場で働けることを、とてもうれしく思っています。

着任して、まず気付いたのは、利用者の皆様と職員の皆さんが、本当の家族のように接している姿。そこにある笑顔と感謝です。体調を崩しやすい重症な利用者の皆様を支えるのは、とても大変な仕事だと思いますが、誰もが努力し互いに支えあう、すばらしい職場だと感じました。

一方、人員や予算面は大変厳しいと伺っています。新センターの開設準備などもあり、皆様には、ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、精一杯努力してまいりますので、ご理解とご協力を頂きますようお願い申し上げます。



退任挨拶

○ 前事務次長 竹下 勝（たけした まさる）

白銀母（しろがねも） 金母（こがねも） 玉母（たまも） 奈爾世爾（なにせむに） 麻佐禮留（まされる） 多可良（たから） 古爾斯（こにし） 迦米夜母（かめやも） 「山上憶良」・・・万葉集

府中療育センター在任中にお世話になりました家族会の皆様から、この歌に表現されている親の深い愛情を心から感じさせていただきました。こうした心に向き合い、院長をはじめ医師、看護師、福祉職等の職員が連携協力して、利用者の方々を支援している姿が今でも目に浮かんできます。大雪が降った時、黙々と雪かきしていた職員の姿も目に浮かびます。2年の在任期間、色々な思い出があります。とても有意義な時間でした。

センターは2020年、新センターとして新たに歩むこととなりますが、これまでの半世紀に培った療育支援の様々なノウハウを未来につなげていただければと思います。

センター運営は都職員だけでなく、建物管理・医事事務・病棟クラーク・調理など委託事業者の方々にも支えられています。

どうぞ、様々な力を結集して府中療育センターがさらに都民に貢献できますよう力強く歩まれますことを期待しております。

最後になりましたが、職員・関係各位に深く感謝申し上げ、事務次長退任の挨拶とさせていただきます。

○ 前栄養科長 鶴見 田鶴子（つるみ たづこ）

平成30年3月31日付で、東京都を退職いたしました。

40余年間、都職員として勤務してまいりましたが、最後の5年間は府中療育センター栄養科長として重症心身障害児（者）の療育や食事提供業務にかかわる機会をいただけたことに感謝しております。

摂食嚥下に障害のある利用者の方々に、少しでも摂食嚥下しやすい食事を提供することができるよう、栄養科職員や多職種の職員と力を合わせて検討や工夫などを行ってまいりました。ご協力ありがとうございました。

現在、約2年後の新センター完成に向けた様々な取組が、着実に進められています。府中療育センターが、今後も益々発展していくことを祈念しております。

お世話になりました、ありがとうございました。

○ 前薬剤科長 寺山 義泰（てらやま よしやす）

平成28年4月から30年3月まで府中療育センター薬剤科に勤務しておりました。

センターに勤務するまでは、療育を十分には知らなかったため、どのような医療が行われているのか分からずに不安もありました。しかし、センターでの2年間は療育を知る上でとても貴重な時間になりました。

薬剤師として院内感染制御チーム（ICT）、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）、医療安全、緩和ケア等の活動や医療に携わり、また薬剤科長として新センター開設に携わりました。できれば、最後まで携わりたかったのですが、今回、府中療育センターより転出することになりました。今後開設される新センターがより良い施設となりますよう、また利用者の皆様がますます安心して過ごせるよう、陰ながら応援させていただきます。今までありがとうございました。



平成29年度「福祉サービス第三者評価」の結果について

事務長 貝瀬 由明

福祉サービス第三者評価は、中立的な第三者である評価機関が、様々なデータやヒアリング、施設調査などをもとに、福祉施設の運営やサービス等について客観的な評価を行い、その結果を利用者や事業者によく公表する制度です。

当センターでは、利用者本位のより良いサービスの提供を目指して、平成17年度から継続して受審しているところです。

平成29年度については、特定非営利活動法人日本高齢者介護協会が評価機関となって実施しました。その結果を報告します。

【 平成29年度 評価結果の概要 】

サービス種別		医療型障害児入所施設	生活介護
区分	全体の評価講評	地域療育機能を担う療育センターとして重篤な身体的合併症への医療的対応や地域療育講習会等で専門職の育成を図っています。	利用者の重症度が高い通所施設として地域療育機能を担う療育センターの在宅支援事業を積極的に取り組んでいます。
		「人権チェックリスト」を用いて職員の意識啓発を図っています。	利用者の人権尊重、権利擁護の為、個々に配慮した支援を心掛けています。
		多職種が関わり、利用者の生活向上を目指し施設内外の社会参加の充実を図っています。	たゆまぬ修練による看護・介護技術が重度の障害者とのコミュニケーションに役立っています。
	さらなる改善が望まれる点	地域療育機能を担う事業所として新センターへの移転に向けて重症心身障害児（者）の先進的医療・療育のさらなる取り組みに期待します。	地域療育機能を担う事業所として新センターへの移転に向けて重症心身障害児（者）の先進的医療・療育のさらなる取り組みに期待します。
		多職種や関係部署との連携強化の工夫が期待されます。	各職場・職種間との協力体制を充実する工夫が期待されます。
		認定看護師やこれから資格取得する職員の働きに期待が掛かっています。	利用者が安心して利用できる環境整備、職員の啓発活動に期待します。
事業者が特に力を入れている点	中長期計画として新センター全面移転改築計画の推進をしています。	中長期計画として新センター全面移転改築計画の推進をしています。	
	安全安心対策として「医療面」での取り組みを強化しています。	安全安心対策として「医療面」での取り組みを強化しています。	
	利用者の日常が、多様な体験に溢れている環境を提供しています。	地域の情報を得て、利用者の生活の活性化を図っています。	

〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042(323)5115

Fax 042(322)6207

--*ホームページもご覧下さい*-*-*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>